



2025.3.22 札幌市丸山動物園×気候変動教育プロジェクト  
「対話・学びの拠点としての動物園・水族館の可能性」

## 丸山動物園における対話・学びの取組

札幌市環境局 丸山動物園 保全・教育推進課  
保全・教育担当係長 佐竹 輝洋

## 基本理念

命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園

自然と人が共生する持続可能な社会の「実現」に貢献するため、「動物福祉」を根幹に、生物多様性の「保全」、「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション※」に力を入れていく。

※「ビジョン2050」では、レクリエーションに代わる表現としてリ・クリエーションを「再創造」と定義して使用する。

重点取組の1つに「教育」を位置付け



札幌市円山動物園 \* Sapporo Maruyama Zoo

文字サイズ 縮小 標準 拡大 色合いの変更 音声読み上げ Foreign language

札幌市役所トップページ 公式X (旧Twitter) サイトマップ

サイト内検索 検索

ホーム 総合案内 動物紹介 環境教育 イベント情報

ホーム > 環境を学ぼう

いいね! 0 シェアする 投稿 LINEで送る イイネ! BI 0 更新日: 2022年7月11日

## 環境を学ぼう



円山動物園では楽しみながら動物たちや環境問題、命の大切さなどについて学べる学習プログラムとして、園内で授業を行う「園内講座」と、円山動物園の解説員が直接伺い授業を行う「出前講座」をご用意しております。

「お助け教材」には先生方が児童・生徒に向けて授業を行う際に見えるようなワークシートや貸出教材、ご家族で使用できるようなめりえなどを掲載しておりますので、ぜひ学習の目的に沿ったものをご活用ください。

- 園内講座
- 出前講座
- お助け教材
- 学生実習
- 保全活動
- 教員研修



園内講座では小学生から高校生までを対象とした教育関連施設や児童会館などの、子どもの学習を支援する施設を対象に、動物園内で動物や環境問題、命の大切さ、動物園での仕事などについて、実際に動物を見たりパワーポイントのスライドを見ながら話を聞いたりして学習していただくプログラムを実施しています。

### プログラム

園内ガイド  
(団体向け)



解説員が施設を案内しながら、命の大切さや環境問題についてお話しします。

座学  
(団体向け)



解説員がパワーポイントのスライドを使用し、各テーマに沿ったお話をします。

インタビュー - (団体向け)



事前にいただいた質問に解説員がお答えします。電話や手紙、FAXでの質問にも対応可能です。

動物病院体験プログラム (個人向け)



獣医師さんが動物病院内で診療機器の説明や治療の見学、骨格標本の解説などを行います。(個人向け)

ボランティアガイド



円山動物園のボランティアさんが、動物たちや環境のことなどについてガイドを行います。様々なプログラムがあるのでぜひご覧ください。



園内ガイドでは解説員が施設を案内しながら命の大切さや動物を飼育するということ、飼育員の仕事などについてお話しします。話を聞きながらメモすることが出来る学習プリントもご用意しておりますので、学習の目的に合ったものをご活用ください。

## プログラム概要

対象年齢	小学生から高校生まで
定員	飼料庫ガイド：15名 ゾウ舎ツアー：10名 動物病院ガイド：10名
お申し込み方法	下記のプログラム一覧からプログラムをお選びいただき、 <a href="#">お申し込みページ</a> へお進みください。

## プログラム一覧



座学では園内の教室やホールでパワーポイントの slides を使用しながら解説員が円山動物園や飼育員のお仕事、動物たちと環境などについてお話しします。

## プログラム概要

対象年齢	小学生から高校生まで
定員	50名
お申し込み方法	下記のプログラム一覧からプログラムをお選びいただき、 <a href="#">お申し込みページ</a> へお進みください。

## プログラム一覧



## その他のプログラム

### 飼育員・獣医師によるガイド

- 円山ZOOガイド
- 世界〇〇の日特別ガイド  
(イベントを開催する場合もあり)
- 動物病院ガイド



### ボランティアによるガイド

- サンデーガイド
- ツアーガイド
- 各種イベントの開催  
(チリモン観察会、羊毛フェルト等)



さっぽろ円山動物園だよりの発行も

## ○教育対象者について

→主に小中学生向けのプログラムが多く、将来のキャリアを検討する高校生・大学生向けのプログラムが少ない。

## ○教育の深度、行動変容について

→小中学生に合わせたプログラムが多いため、教育内容の深度が浅く、また、行動変容まで結び付けた教育プログラムまで展開できていない。

## ○教育担当職員の体制について

→地球環境問題など、専門的なプログラムを実施するための人材が不足しているほか、新たなプログラムを検討する余裕が少ない。

## ○「オランウータンとボルネオの森」オープン（2024年5月）

→新たな施設を活用した教育プログラム実施の必要性。



- 「気候変動教育」をテーマに、**環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）との連携により、2023年度からスタートしたプロジェクト。**
- 円山動物園において、生息地の環境変化や気候変動に関するメッセージを伝えるとともに、**環境・サステナビリティについての対話・学びの場としての動物園の役割を定着させることを目指す。**

## 2023 作戦会議

- 関係者・実践者によるワークショップ（全3回）
- 動物園の魅力、可能性、取り組みのアイデアを整理
- フォーラムで成果を発信

## 2024 実践

- イベントでの発信 ～ アースデイへの参加
- 学校教育との連携 ～ 教員ワークショップの開催
- 飼育展示を活用した対話プログラムの実践（全3回）
- 道内動物園・水族館の環境教育実践状況等のヒアリング調査

## 2025 仕組み化

- 企業と連携したプログラム試行（全2回）
- 動物園と企業の対話・意見交換
- 道内他園館での可能性、今後の方針の検討

- 飼育動物の解説を入口に、**生息地の環境変化や気候変動の影響、複雑性を知り、暮らしや社会・経済活動との関わりを考える対話の場**として試行実施。
- 各回ともスタッフの園内ガイド、生息地についての情報提供を経て、ファシリテーターの進行により参加者同士で意見交換・交流を行った。

## ① アムールトラ・ユキヒョウ編

～寒帯林・高山帯で何が起きているのか～

2024年11月3日(土) 13:00～16:00

- 高山帯や寒帯林の環境、自然と共生する先住民の暮らし、人間活動や気候変動の直接・間接の影響・環境変化を学び、問題解決や動物園の役割について意見交換(参加19名)
- ゲスト：伊藤健次さん(写真家)  
工藤菜生(札幌市円山動物園)

## ② アジアゾウ・オランウータン編

～アジアの森と私たちの暮らし～

11月16日(土) 13:00～16:00

- ゾウやオランウータンを通して熱帯雨林の開発と私たちの生活との関わりを伝え、パーム油を題材にエシカルな暮らし・経済の可能性について対話(参加23名)
- ゲスト：八木亜紀子さん(開発教育協会)  
朝倉卓也(札幌市円山動物園)

## ③ ゴマフアザラシ・ワシ類編

～気候変動と北海道の野生生物～

11月23日(土) 13:00～16:00

- 気候変動の影響を直接間接に受けている北海道の野生生物について考える場として開催(参加19名)
- ゲスト：小林万里さん(東京農業大学)  
菊池晏那(札幌市円山動物園)  
長谷川理さん(EnVision環境保全事務所)



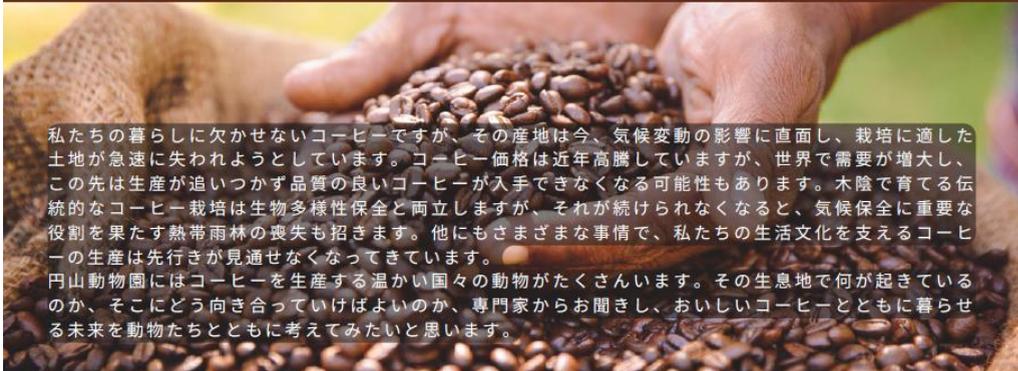
※このほか、2025年3月に地域フォーラムを実施。

- 2024年度の実施内容を踏まえ、**参加者にとって「より身近な製品や体験」をテーマとした内容。**
- 登壇者からの情報提供や動物を見ながらの解説を踏まえ、対話を通じて自身が感じたことや疑問に思ったこと、これからの行動について対話を通じて考える機会を創出。

札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

動物園で考える地球環境の未来

## 第1回 コーヒーと気候変動・生物多様性



私たちの暮らしに欠かせないコーヒーですが、その産地は今、気候変動の影響に直面し、栽培に適した土地が急速に失われようとしています。コーヒー価格は近年高騰していますが、世界で需要が増大し、この先は生産が追いつかず品質の良いコーヒーが入手できなくなる可能性もあります。木陰で育てる伝統的なコーヒー栽培は生物多様性保全と両立しますが、それが続けられなくなると、気候保全に重要な役割を果たす熱帯雨林の喪失も招きます。他にもさまざまな事情で、私たちの生活文化を支えるコーヒーの生産は先行きが見通せなくなってきています。

円山動物園にはコーヒーを生産する温かい国々の動物がたくさんいます。その生息地で何が起きているのか、そこにどう向き合っていけばいいのか、専門家からお聞きし、おいしいコーヒーとともに暮らせる未来を動物たちとともに考えてみたいと思います。

8/23<sup>±</sup>

12:30~15:00

会場：札幌市円山動物園

ゲスト



日本サステナブルコーヒー協会理事  
株式会社ミカフェート代表取締役社長

José.川島良彰さん

札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

動物園で考える地球環境の未来

## 第2回 スノーボードと気候変動・生物多様性



スノーボードやスキーをはじめとするウィンタースポーツは、雪質の変化やシーズン短縮といった気候変動の影響に直面しています。こうした状況に対して、スノーボードメーカーであるBurton社は、将来もスノーボードを楽しめるよう、環境保全に責任ある対応を果たそうとしています。製品の製造には従来、たくさんのエネルギーと資源、化学物質を必要としますが、同社では環境に優しいエネルギーや素材への転換、資源の循環や余剰資材の見直しなど、未来の雪山と地球を守るためにさまざまな取り組みを行っています。

円山動物園にも、ホッキョクグマなど気候変動により生息を脅かされている極域の動物がいます。そうした動物と向き合いながら、私たちの暮らしと気候や生態系の関わりや、消費者と企業の責任・役割を考えていきます。

10/18<sup>±</sup>

13:00~15:30

会場：札幌市円山動物園

ゲスト



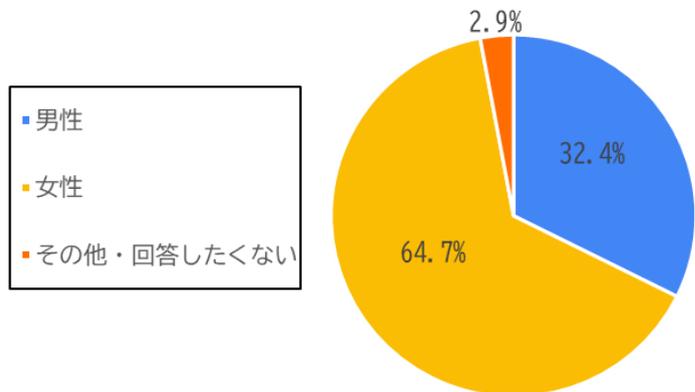
Burton Flagship Sapporo  
ストアマネージャー

坂井 健人さん

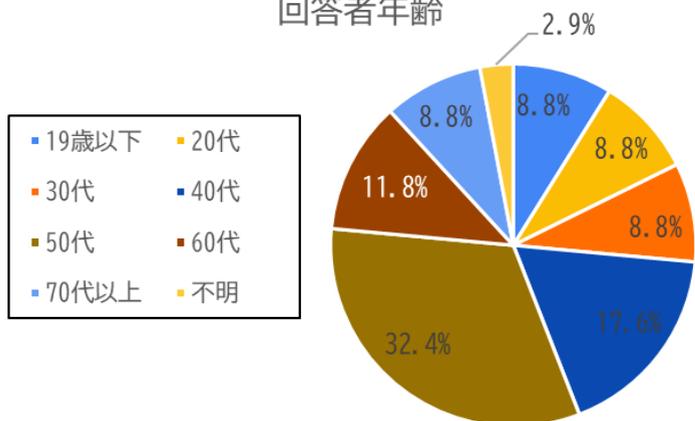
※このほか、2025年12月に企業との意見交換会、2026年3月に地域フォーラムを実施。

	第1回	第2回	第3回	合計
参加者数	19	23	26	68
アンケート回収数	7	11	16	34
回収率	36.8%	47.8%	61.5%	50.0%

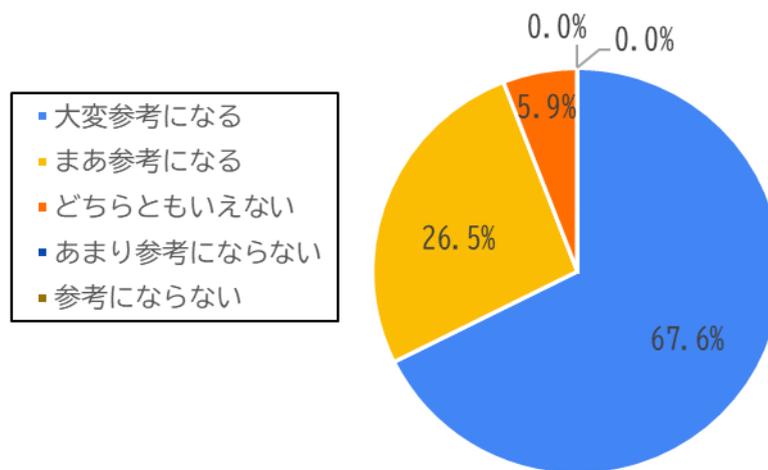
回答者属性



回答者年齢



取組の参考になったか



<自由記述（抜粋）>

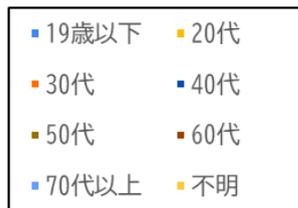
- プログラムの中で、特に関心を持たれたこと。
  - ・パーム油の認証マークの紹介から、自分のスーパーでの買い物などを振り返らされて、消費者としての自分の行動にもう少し環境配慮の視点が必要だと感じました。
  - ・それぞれの立場に沿って意見交換する企画に関心をもった。それぞれの意見を知ることができた
- 動物園で行いたいと思ったことや、動物園の取組への期待。
  - ・さらに動物ガイドがある時に説明を聞きたいと思った。
  - ・今回のような催しに積極的に参加し、人に広めたい
- その他、ご意見やご感想、お気づきの点等。
  - ・座学だけの講義、講演よりも実際に動物を観察しながらのお話は興味深かったです。機会があれば生息域内で出来る活動に参加してみたいです。
  - ・見知らぬ人と話すのは、ハードルが高かったのですが、逆に普段話せない世代の方の意見がきけたり、とても貴重な機会となりました。

	第1回	第2回	合計
参加者数	30	18	48
アンケート回収数	26	16	42
回収率	86.7%	88.9%	87.5%

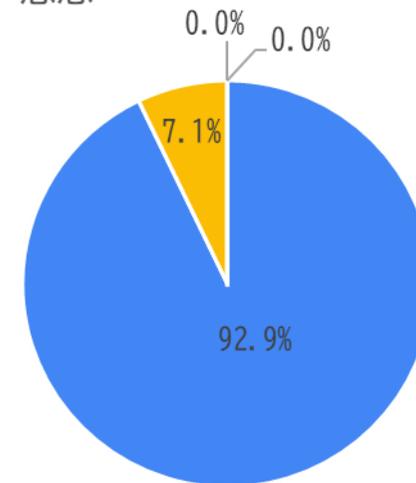
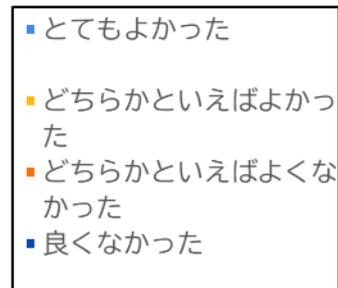
回答者属性



回答者年齢



感想



## <自由記述（抜粋）>

### ■日々の暮らしと気候変動・生物多様性についての気づき。

- ・刻一刻と気候変動が、我々の暮らしにさまざまな影響を与えていること。
- ・やれる事は、まだまだたくさんあるのかも？と思うことができました。やはり、いろいろな人との意見交換は大切です。

### ■気候変動対策や生物多様性保全について、動物園の取組への期待。

- ・本日のように、来園者にこうしたテーマについて、感じ考え、行動につながる試みをこれからも続けていただきたい。
- ・動物ガイドの際に気候変動・生物多様性保全に関する内容も含めていただくとありがたいです。

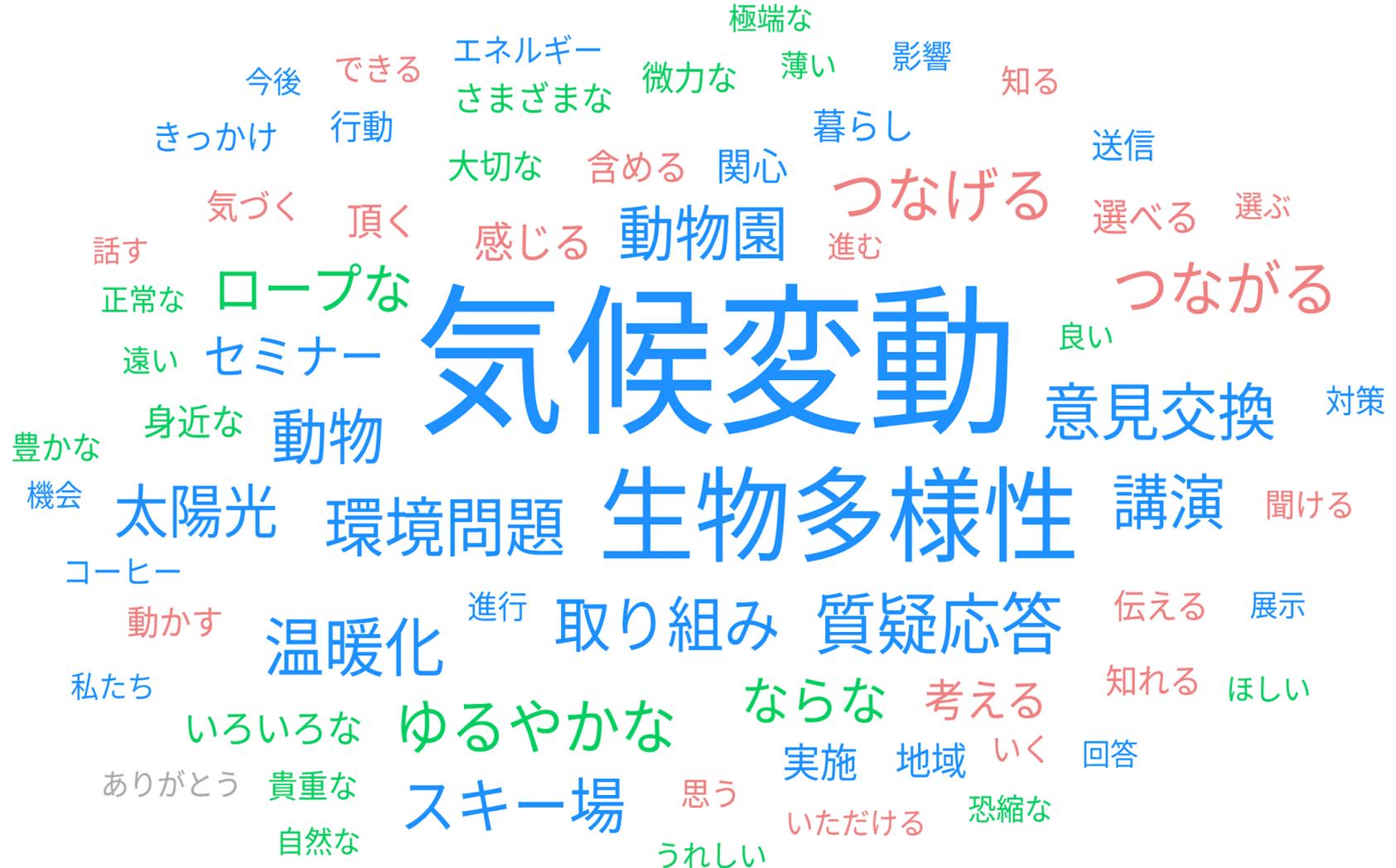
### ■その他、ご意見やご感想、お気づきの点等。

- ・このような貴重な機会をありがとうございました。知り合いにも今日の気づきを伝えていこうと思います。
- ・意見交換なしで質疑応答までのプログラムでよいので、セミナー等を今後も実施してほしい。



<2025年度 (回答数: 68件) >

- ・私たちの日々の暮らしと気候変動・生物多様性について、どのような気づきがありましたか。
- ・気候変動対策や生物多様性保全について、動物園の取り組みへの期待などございましたらお聞かせください。
- ・その他、ご意見やご感想、お気づきの点等ございましたら、ご自由にご記入ください。





札幌市円山動物園 & 認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）連携プログラム

Great Ape  
Bornean Orangutan

**パーム油問題を学び、円山動物園での  
教育プログラムを考えるワークショップ**

2024年9月21日（土）10:00-16:00

札幌市円山動物園 科学館ホール  
(札幌市中央区宮ケ丘3番地1 円山動物園正門って左側の建物)



みなさんは、「パーム油（パームオイル）」という言葉を知ったことはありますか？「聞いたことがある」という人でも、「何に使われているか」まで説明できる人はそれほど多くないのではないでしょうか。

この「パーム油」は、今や世界中で使われ、私たちの生活に密接なものになっていますが、その約9割は東南アジアのプランテーションで生産され、現地の森林破壊や生物多様性の損失などの問題を引き起こしています。

本ワークショップは、このパーム油の問題について学び、今年5月に円山動物園にオープンした「オランウータンとボルネオの森」などを活用した教育プログラムをグループで考え、10月に実践します。

**対象** 環境問題や社会問題に取り組む高校生や大学生のグループ（2名以上）  
※学生であれば個人参加も可能ですが、10月の実践の際は他のグループと合同で実施いただきます。

**参加費** 無料 ※円山動物園の入園料は別途かかります。

## プログラム内容

- 09:30-10:00 参加者受付
- 10:00-10:15 ガイダンス、円山動物園の紹介
- 10:15-12:00 パーム油ワークショップ（DEAR）
- 12:00-13:00 <休憩>
- 13:00-14:00 施設見学（ゾウ舎、オランウータンとボルネオの森）
- 14:00-14:30 教材開発のポイント解説（DEAR）
- 14:30-15:30 教育プログラム検討ワークショップ（DEAR）
- 15:30-16:00 各グループの発表、まとめ

※プログラムは当日変更になる可能性があります。

ここで検討した教育プログラムは、  
10月に円山動物園で実践します！

## 講師・お申込み

講師：NPO 法人 開発教育協会（DEAR）  
事業主任 八木 亜紀子さん



参加は上の二次元コードからお申込みください。

主催 | 札幌市円山動物園 協力 | NPO 法人開発教育協会（DEAR）

お問い合わせ | TEL:011-621-1427、Mail: zoo.edu@city.sapporo.jp（保全・教育推進課）

- 認定NPO法人開発教育協会（DEAR）と連携し、同協会が開発した「パーム油のはなしー地球にやさしいってなんだろう？」を元に、パーム油について学び、円山動物園で実施できる教育プログラムを高校生、大学生が考え、実践するワークショップを開催。
- 対象は環境問題に関心のある高校生・大学生のグループとし、当日は7つのグループ（計26名）が参加した。

パーム油のはなし

「地球にやさしい」って  
なんだろう？

©DEAR All Rights Reserved



○ 9月に実施したワークショップで検討した教育プログラムをベースに、同年10月19日（土）に、参加者による教育プログラムを実践した。



## 【実施プログラム】

### ■ 藤女子大学 人間生活学科2年「藤女子大学チームラボ」

→小学生を対象とし、「へえ、知らなかった！ ホッキョクグマのひみつ」ワークショップを開催し、気候変動がホッキョクグマに与える影響を探り、持続可能な未来に向けたアクションを参加者の方々と一緒に考える。

### ■ 酪農学園大学

→オランウータンとボルネオの森の来場者に対し、パーム油や動物をテーマにしたビンゴ型クイズラリーを実施。

### ■ 元札幌開成7期

→小学生以下のお子さんを対象に、オランウータンやアジアゾウに関するワークシートを使ったクイズを実施。

### ■ 市立藻岩高等学校

→ゾウ舎に訪れる来園者に対して、ボルネオ島でのプランテーション事業や野生動物との軋轢に関する話題提供を行う。

### ■ 札幌龍谷学園高等学校

→来園者に向けてパネルの解説や、パーム油と私たちの生活に関するプレゼンテーションを行う。

### ■ 札幌啓成高校

→森林の減少や分断化による人間生活と野生動物の接近・接触についてのプレゼンテーションや、来園者の皆さんが考える望ましい共生関係について模造紙に書き込んでもらう、紙上ディスカッションを行う。

- 高校生・大学生による多様なプログラムを来園者に向けて実施できたほか、ワークショップを実施した開発教育協会（DEAR）のホームページでも一連の取組が発信された。
- また、酪農学園大学の学生が実施した「オランウータンとボルネオの森」の来場者に対するビンゴ型クイズラリーは、「動物以外の展示物を来園者に見てもらえない」という課題を解決できるものであったことから、2025年度から当園のプログラムとして実施することとした（内容については別途ポスター発表で報告）。
- さらに、今回参加した学生が、他の当園事業のボランティアとして参加するなど、動物園との関わりが深まった。



**オランウータンとボルネオの森**  
**ビンゴ×クイズラリー**

施設内をよく見てクイズに答えよう  
・5個以上ビンゴで景品プレゼント!

特殊な形の輪郭で、色を採ることか 「ウツギ」が 葉を採ってみよう! 見つけた! ビンゴ!	赤色で世界最大の花 「ラフレシア」を 採ってみよう 見つけた! ビンゴ!	オスの頭には ○○○の短い 鬃毛がある! ○に入る数字は何? ○○○○
オランウータンは ○○○の人の ○○○にはいるものほ ん?	これは何の果? ○○○ザシの果	オランウータンは 「地上○-Om」 で生活している ○に入る数字は何? ○～○m
アブラヤシからどれ のハムは何に使 われる? ・加工食品・洗剤 ・加工食品・化粧品 ・医薬品 動物のまらに○を 採ろう	くちばしが大きくて、 尻に大きな羽の ようなものがある鳥 「ツシギ」が 採ろう 見つけた! ビンゴ!	このマークは○○○ マーク ○にはいる数字は何? ○○○○



DEARによるレポート

展示を見ないと  
回答できないクイズを実施



2025年3月に実施した  
イベントに学生が  
ボランティアとして参加



## ○外部機関との連携によるノウハウ活用

環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）や開発教育協会（DEAR）との連携とノウハウの活用により、気候変動や生物多様性、パーム油の現状や課題に関して、専門家や実践者を通じて参加者に伝えることができた。

## ○中高生以上の年齢層を対象とすることへの理解の深化

小中学生が対象の場合では実践しづらい、気候変動などの環境問題に関する現状や現地の課題などの深い理解を提供することができたほか、対話を通じたプログラムにより、気候変動や生物多様性への関心の高まりを得ることができた。

## ○プログラム実施による考察

今回の事例では、動物園職員のみでは実施が難しい、環境問題に関する専門的知識の提供や対話におけるファシリテーション技術の活用、学生による来園者向けプログラムの構築方法の情報提供など、これまで実施できていなかった教育プログラムを構築することができた。また、学生による実践者の育成まで結びつけられたことから、外部機関との連携による専門的知識や経験、人的リソースの活用は、動物園教育において有効となる可能性が示唆された。

# ご清聴、ありがとうございました。

質問・要望等は↓までご連絡ください。

札幌市円山動物園 保全・教育推進課（中央区宮ヶ丘3番地1）

TEL : 011-621-1426

Mali : zoo.edu@city.sapporo.jp